

平成24年度

地域で決める学校予算事業第4回評価会議 会議録

平成25年3月18日 会議

地域教育課

平成 24 年度 地域で決める学校予算事業 第 4 回評価会議 会議録

開催日時	平成 25 年 3 月 18 日 (月) 17 時 30 分～19 時 00 分
開催場所	奈良市役所 北棟 2 階 第 14 会議室
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会 (西崎教育総務部次長あいさつ) (1) プレゼンテーション評価結果について (2) 平成 24 年度事業の評価について (3) 平成 25 年度の事業について (4) その他 ○ 閉会 (加藤委員長あいさつ)
出席者 (委員)	<p>加藤久雄委員長 岡田龍樹委員 瀬渡章子委員 藤丸正明委員</p>
(事務局)	<p>西崎教育総務部次長、北谷学校教育課長、林地域教育課長 地域教育課 (上羅主査、市川係長、他 5 名)</p>
開催形態	公 開
担当課	地域教育課

議事および協議内容

○ 開会（司会 地域教育課市川係長）

- ・西崎教育総務部次長あいさつ

2月末日で「地域で決める学校予算事業」も無事終了した。今回はH24年度決算・活動のまとめ、評価結果（H25年2月3日地域で決める学校予算事業プレゼンテーション）の報告をおこないたい。

地域学校連携推進事業は3年目を終えた。各地域教育協議会を中心に大きな成果が上がる反面、各地域の課題も見えてきた。1年の締めくくりの会議として評価していただきたい。

○ はじめに

- ・加藤委員長より

写真撮影、録音の了承

会議録の署名は藤丸委員と岡田委員

傍聴希望者無し

議事

(1) プレゼンテーション評価結果について（事務局上羅主査より）

別紙資料参照：地域で決める学校予算事業プレゼンテーション出席者一覧
中学校区別評価一覧
地域で決める学校予算事業 全体評価及び中学校区別評価
(H23～25年レーダーチャート)

加藤委員長 事務局より説明を。

上羅主査 昨年度との比較では、プレゼンテーション出席者増加（86名→97名）、報告者も協議会関係者が増加（15校→17校）、評価においても全体評価70点満点のうち60点以上が（2校→17校区）と全て増加した。大きな校区差がなくなった。

評価項目別では、「学校の姿」「プラン」「計画性」の伸びが顕著だが、「地域連携」「支援人材」は増減変化がなく、どのような課題があり、どのような地域連携をするのか、また支援人材をどのように活用するのかが、今後の課題だ。

今後、各中学校区に評価結果（レーダーチャート）、課題や3年間のまとめコメントをつけ、返却する予定。たとえば田原中校区は大きく伸びた。

次年度プレゼンテーションについては3年間実施し、委員のみなさんにご苦勞をおかけした。担当課で評価してはどうかという意見もある。評価の仕方も話し合っていたきたい。

加藤委員長 事務局よりの説明について御質問は。

地域で決める学校予算事業は3年を終えようとしている。各地域教育協議会では、内容にあまり変化がないところと、大きくレベルアップしたところとがある。良い評価の中学校区は3年間レベルが持続している。極端に悪い中学校区もない。

- 瀬渡委員 今年はレーザーチャートのバランスがどの校区もよい。
- 加藤委員 レーザーチャートで一番バランスの良い校区のポイントが高い。富雄第三小中学校はすごい。74点もある。
- 上羅主査 最も伸びたのは富雄第三小中学校区。昨年は56.5点だった。協議会会長を中心に視察・研修をし、組織ぐるみでの取組をした。地域、養護学校との連携も積極的に進めた。
- 岡田委員 プレゼンテーションは次年度の活動計画を評価するが、今年度の活動が良好だと、プレゼンテーション評価（計画）も良いと考えてよいか。
- 上羅主査 イベントの数や実施が増え、やるべきことが見えてきた。消耗品ばかりの計上ではなく、取組するための予算立てになってきた。ただ、依然として使い道について、うまく計画・実施できていない校区もある。都祁、春日、登美ヶ丘北中学校区は昨年と同じ予算・計画案だ。総括報告書も提出していただいたが、次年度活動計画が昨年と同じであるとプレゼンテーション評価も低い。
- 加藤委員 事業全体としては着実に進んでいる。昨年度のコピーはだめだが、継続要素も大事。毎年計画が変わるのもどうかと思う。

（２）平成24年度事業の評価について

別紙資料参照：地域で決める学校予算事業執行状況調査報告（概要）

- 加藤委員長 平成24年度事業の評価について、事務局からの報告を。
- 上羅主査 平成24年度も執行状況調査を行い、全ての中学校区（各地域教育協議会や各運営委員会）で適正に実施されているかを具体的に、聞き取り調査した。別紙資料に基づき説明する。
- 執行状況調査時、協議会出席者は学校側だけでなく、コーディネーターや協議会会長なども多数あった。調査期間は10月～12月であったが予算・取組の執行、会計帳簿・伺い書の整備もほぼ全ての校区で計画どおり実施された。
- 各学校園のHP、「便り」、地域自治会掲示版など、地域への広報も増えている。
- 会計担当者は学校の教頭が多数だったが、教頭と共にコーディネーターが担うところも増えてきた。
- 事業の成果として顕著だったものは以下である。
- ・子どもと地域住民の交流やあいさつの励行
 - ・地域と学校園・教職員の交流・連携・協働の深まり
 - ・中学校区としてのまとまりや繋がり促進
 - ・幼小中校種間での連携・交流の深まり
- 事業の課題としては、
- ・地域への事業の広報
 - ・地域支援人材・コーディネーターの確保と育成
 - ・予算の柔軟な使い道が挙げられる。
- 成果も明確になり、課題も整理されてきた。

加藤委員長 これについての質問は。

瀬渡委員 プレゼンテーションや事業計画からは、学校園ホームページなどでの広報が進んでいる。課題として挙げている支援人材の確保や地域既存団体との共存などを考えると、さらに地域への広報が必要だ。この執行状況調査を市のホームページに載せ、各学校ホームページともリンクさせる。保護者や地域が見てわかるようにすれば、広報に繋がるのではないか。

加藤委員長 市のホームページ内「地域で決める学校予算事業」を見ると「__月__日、__中学校区でイベントがある」という情報が分かるシステムになっている。

藤丸委員 インターネットホームページだけでなく、「各地域教育協議会だより」を「市民だより」に挟み込んでどうか。これだけの成果があるのだから、学校の困っていることや各中学校区の特徴などを情報提供すると良い。

瀬渡委員 各中学校別のデータは格差が明らかになるのでだめだが、数値でレベル上昇を知らせ、3年間の成果を広報すれば、地域の励みになる。

藤丸委員 予算に比して成果が大きいので、ぜひ広報したい。発掘できていないだけで、学校支援に参加したいと思う人はたくさんいると思う。

加藤委員長 各中学校区の良い特徴を広報したい。支援人材の確保（今後この事業を支えてくれる人）が気になるが、この対策は。

藤丸委員 3年実施した成果をいかにうまく広報できるかだと思う。成果があった事例をもとに多くの人に参加しようと思うようになればよい。気持ちの強い人だけの参加ではなく、多くの人に参加してほしい。

加藤委員長 広報することで、熱心な人だけでなく、誰もが係われるよう、垣根を低くできる。

藤丸委員 地域のみなさんは、どうしたら人が集まるかなど、PRの仕方・広報能力がついてきている。

瀬渡委員 コーディネーターの確保も難しい。有能でなければというように、ハードルが高いと思われがちだ。例えば活躍するコーディネーターの体験談など生の声を載せてみるのはどうか。

岡田委員 この報告書を有効活用したい。誰が読むのか。

上羅主査 各中学校区には、個々の結果だけを報告する。

加藤委員長 自尊感情を育て、このくらいなら自分もできるという思いに持っていきたい。

岡田委員 執行状況調査で、地域教育課が聞き取りをしたエネルギーを活かしたい。

上羅主査 文章表記でない箇所は返せる。

岡田委員 コーディネーターの中には、今後の取組をどうしようかと考えている人もいるので、各中学校区の情報を開示し、共有できれば良いと思う。

加藤委員長 平成24年度事業そのものの評価としてはどうだろうか。一校は事業が遅れているというが。

藤丸委員 調査して得た情報をどう活かすかだが、交流の集いとプレゼンテーションを合わせたイベントはどうか。評価も数人の評価委員だけでなく、皆で見て評価してはどうか。

加藤委員長 この「地域で決める学校予算事業」も5ヶ年目は、100年会館でイベントをして
もよいかもかもしれない。

(3) 平成25年度の事業について

別紙資料参照：奈良市地域教育推進事業第2回「交流の集い」報告書

加藤委員長 では事務局から説明を

上羅主査 ■平成25年2月16日第2回交流の集いについて

テーマ：「地域で育てる 地域でつながる」—未来につながる組織・ネットワークづくり—

内容：地域教育協議会メンバー・地域・教職員による熟議
展示鑑賞

関連事業（各種団体および学区ブランド産品プロジェクト）の展示・紹介

参加者数：地域教育協議会関係者（213名→311名）

学校関係者（138名→200名）

自治会関係者（52名→80名）

行政（18名→16名） 昨年に比べ増

参加者のアンケート結果：肯定意見多数。ただし展示鑑賞では意見交流ができなかったというコメントあり。

本イベントは実行委員会（地域コーディネーターで組織）と地域教育課の協働で実施。

熟議では課題が5項目に絞られ話し合われた。

- ・事務・会計処理について
- ・人材の確保・育成
- ・広報
- ・教職員の理解・学校園との連携
- ・協議会のあり方

■平成25年度の事業について

平成25年度事業にもほぼ同額予算を計上している。各中学校区の試算・試算に基づき実施予定。

■奈良市地域教育を考える委員会について

奈良市地域連携推進事業を円滑に進めるための検討と提言をおこなう。年3回開催
今年度第3回（3月28日）では提言（素案）を提示する予定

提言1 各学校園において、地域との調整を担う地域担当教員（仮称学校コーディネーター）を位置づける

提言2 各学校園において、学校・家庭・地域が集える場所として、支援室（仮称コミュニティルーム）を整備する。

提言3 子どもの活動を支えるために、PTAに対する理解を図り、連携と協働を積極的に推進する。

提言4 事業の理解と浸透を図るために、地域に対する広報を充実させるとともに、公民館との連携を積極的に図っていく。

提言5 地域教育協議会が地域コミュニティの核として定着し、地域資源を活用した事業を積極的に展開する。

加藤委員長 では各委員から意見をどうぞ

私は交流の集いには参加できなかった。文部科学省の講評は不評だったのか。

上羅主査 講評では、文部科学省の新たな方向性や奈良市地域学校連携に対する褒め言葉がなかったからだと思う。

加藤委員長 文部科学省なりの型どおりの説明だったのか。できれば地域の人への熱意や意欲をかきたててほしかった。

藤丸委員 第1回交流の集いに比べ、参加者は増えたのか。

上羅主査 90人増えている。

加藤委員長 中部公民館の会場は声が聞き取りにくいのか。

林課長 大きな会場で何グループもが熟議するので、余計聞き取れなかったと思う。

岡田委員 熟議会場としての活気はあった。

林課長 各グループに仕切りがないので、逆に傍聴者は自由に熟議の様子を聴けたと思う。

瀬渡委員 各グループが同じテーマで話し合ったのか。

林課長 そうだ。全体会で最後は、各グループがまとめの発表をした。

上羅主査 各グループの特徴が出た良い熟議になった。

瀬渡委員 キーワードまで話し合えて良かった。

藤丸委員 当日は熟議参加者、実行委員は名札をつけたのか。

林課長 そうだ。地域の方々の寄せる期待は大きいと思う。

藤丸委員 子どもたちの参加はあったのか。

岡田委員 関連事業として学区ブランド製品の紹介を、子どもたちが活発に会場内でしていた。

(4) その他

加藤委員長 では、その他について事務局から。

上羅主査 本事業も4年目に入り、評価会議の進め方についてご意見を伺いたい。

加藤委員長 3年経過し整ってきたので、データ検証は事務局でもよいと思う。各委員の評価へのアイデアがほしい。ほぼ各中学校区のプレゼンテーションが整ってきたので、何か新しいことに挑戦してもよいのでは。

藤丸委員 短時間に集中して評価するのは、自社の決算と重なり大変だった。

林課長 各協議会のレベルが上がってきた。底上げしていただいたのは成果だと思う。評価委員には、ポイントを決め評価いただくという案も。

加藤委員長 面積の広さ、量の多さが辛い。

瀬渡委員 採点項目が「地域連携」という大項目の下に小項目がたくさんある。計画書を読んで、すぐには評価できない。採点しやすいものにしてほしい。

藤丸委員 各協議会のみなさんが、一生懸命プレゼンテーションしてくださるのに、評価委員

が疲れて採点していて申し訳なかった。

林課長 細部項目は事務局サイドでして、年度の着眼点（例えばひとつの課題にしぼった項目）のみ評価委員が採点するというのはいかがでしょうか。

加藤委員長 各協議会の活動も飛行機でいえば、ようやく飛べるようになった。

林課長 飛ぶための能力はついた。次は飛び方と方向が大事だ。敢えて細部評価は要らないのでは。

上羅主査 次年度の評価については、平成25年度第1回評価委員会で話し合いたい。

○閉会 加藤委員長、閉会のあいさつ

平成 年 月 日

署名委員 _____

署名委員 _____